

ランピースキン病の発生と対応について

令和 7 年 3 月 26 日

家畜衛生部会

農 林 水 産 省

消費・安全局

ランピースキン病とは

届出伝染病 WOAH通報対象疾病

病原体

ランピースキン病ウイルス（ポックスウイルス科カプリポックス属）

宿主

牛、水牛（※人への感染はない）

症状

皮膚の結節や水腫、発熱、抑うつ、リンパ節の肥大、粘膜の結節、鼻や目の出血、乳汁の減少、脚の腫れ、跛行など。泌乳ピーク期の乳牛や子牛で症状が重い、生産性低下による経済的被害、死亡率1～5%。

伝播方法

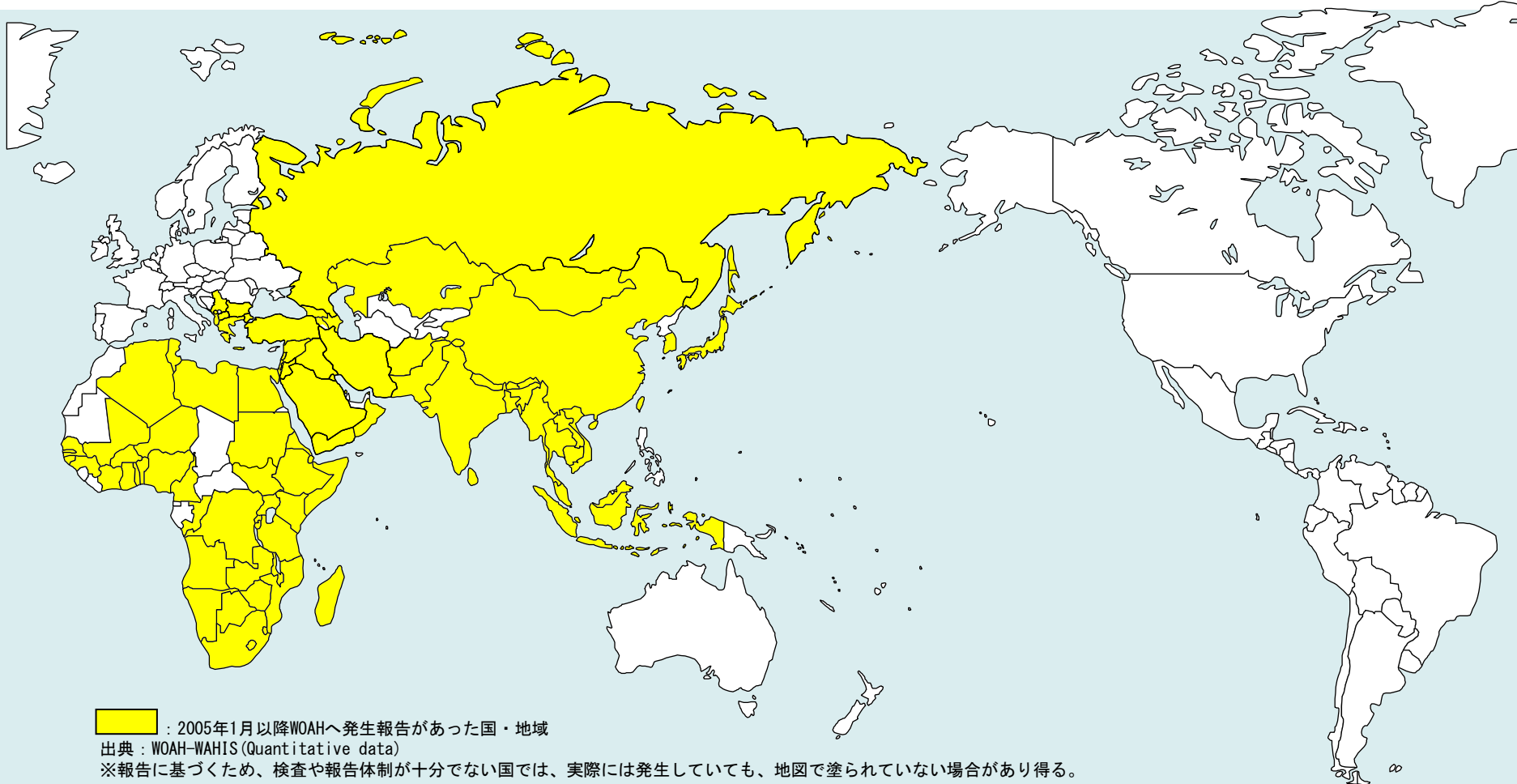
- ・ ベクター（蚊、ハエ、ダニなど） によって機械的に伝播。
- ・ 汚染された飼料、水、器具を介して感染。（肉による伝播リスクは無視できる）

予防と制御

発症牛の早期発見、隔離、移動の自粛
又はとう汰、ワクチン接種等の総合的な
防疫対策が重要



海外での発生状況 (2024年11月7日現在)



アフリカ(42か国・地域)				アジア(20か国・地域)		ヨーロッパ(11か国・地域)		中東(14か国・地域)	
アルジェリア	ギニアビサウ	タンザニア	マラウイ	インド	ベトナム	アゼルバイジャン	セルビア	アフガニスタン	サウジアラビア
アンゴラ	ケニア	チュニジア	マリ	インドネシア	マレーシア	アルバニア	ブルガリア	イエメン	シリア
ウガンダ	コートジボワール	トーゴ	モザンビーク	カンボジア	ミャンマー	アルメニア	モンテネグロ	イスラエル	トルコ
エジプト	コンゴ共和国	ナイジェリア	モーリシャス	シンガポール	モンゴル	カザフスタン	ロシア	イラク	バーレーン
エスワティニ王国	コンゴ民主共和国	ナミビア	リビア	スリランカ	ラオス	ギリシャ	北マケドニア	イラン	パレスチナ
エチオピア	ザンビア	ニジェール	ルワンダ	タイ	韓国	ジョージア		オマーン	ヨルダン
エリトリア	ジブチ	ブルキナファソ	レソト	ネパール	香港			クウェート	レバノン
ガーナ	ジンバブエ	ブルンジ	南アフリカ共和国	パキスタン	台湾				
カメルーン	スーダン	ベナン	南スーダン	バングラデシュ	中国				
ガンビア	セネガル	ボツワナ		ブータン	日本				
ギニア	ソマリア	マダガスカル							